

2023年4月2日

評価報告書

法政大学名誉教授 小林尚登

補助事業名 2023年度 無声発話と手の動きによる新しいコミュニケーションの開発
補助事業者 中央大学教授 橋本秀紀

経緯と評価委員会

上記補助事業に関して、補助事業である橋本秀紀教授から評価の依頼を受け、評価委員会を下記委員で構成し、評価を行った。

評価委員

法政大学名誉教授 小林尚登

慶應義塾大学特任教授 大西公平

Chair Professor of Robotic System, The University of Hong Kong 小菅一弘

中央大学教授 田村裕

上記委員全員と橋本秀紀教授の出席のもと、評価委員会を2024年3月31日(日)13:00-14:00に対面にて開催した。なお、各委員は本事業が開始された2023年10月以降に国内会議および国際会議にて本事業に関する研究発表および質問の機会を得ており、研究内容に関しては事前に承知していた。

評価委員会では、最初の一時間で橋本秀紀教授から研究内容および成果の説明があり、質疑を行った。最後の一時間は橋本秀紀教授が退席し、評価委員のみで評価に関する検討を行った。

評価

本研究では、新しいコミュニケーション方式の確立を目指し、新しいコミュニケーションツールとして生体情報を用いた無声発話認識を行っており、現在のメタバースや音声入力技術の発展を考えると妥当な研究方向だと評価できる。また、具体的な目標として、無声発話認識精度の向上を目標とおり、目標達成のために複数の具体的な研究アプローチから研究項目を遂行した点も高く評価できる。

研究は、無声発話認識の認識精度向上を目的として、(1)無声発話における単語認識の実現に関する研究、(2)無声発話における体動除去に関する研究、(3)無声発話時におけるひらがな一文字ごとの認識の実現に関する研究に項目を分けて実施されており、それぞれの項目において成果が得られている点で評価できる。

また、それぞれの項目にて、得られた成果から課題や改善策を明確にできており、実用的な研究成果と判断できる。事前計画からの遅れについても、今後対応し、国際会議発表、論文誌投稿が行われるとのことであり、さらなる成果を期待したい。

以上より、事前計画に基づき期待通りの成果が得られたと評価できる。